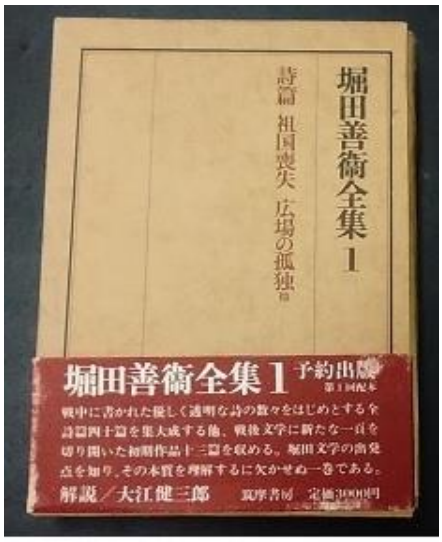
essais こころみ　2019年9月

（再掲）2019年4月1日（月）朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集（筑摩書房　1974年6月20日発刊開始）



2019年9月1日（日）　今年も恒例のお墓の草取り行事のため8/31～9/2にチェジュへ

8/31〈土）午前9時のＫＡＬ直行便でチェジュへ。11月からは運航休止が決まっているので、のこり2カ月の便。来年の今頃には復活していてほしい。

チェジュ到着日は晴天。日差しは強く、暑い。でも日陰に入ると、涼しい秋風。翌日の草取りの日は午前中曇り、午後雨の予報。親戚総出の草取り、午前中には終わるの雨の降らないことを願って、宿泊先へ。今回は例年のホテルから、ネットで見つけたコンドミニアムへ。市内から少し高台に立地。まわりの土地もオーナーのものか、視界が開けて、ハルラ山が一望。部屋も設備が整っていて、評判どおりの「ARA STAY」。

9/1は朝7時すぎから2組に分かれて、作業。昔のお墓は風水によって場所を決めたらしく、現在のロケーションでは、とんでもないところにあったりする。2組がそれぞれ作業を終えて、毎年最後は合流して一番大きいお墓の草取り。お墓の盛土がわからないほど草が茂っている。それを総出で刈っていく。

刈って、刈って、元の姿が表れた。墓前にお供えをし、男性陣が礼ををして、終了。やれやれ終わった！と帰りかけたところで、雨がボツボツ。かれこれ10年以上この行事に日本から参加しているが、一度も中止になったことはない。この日は午後から本降りとなり、翌日2日の午前にかけてずっと雨だった。今年も先祖と天に守られたという思い。

STAYに戻り、一寝入りして、夕食はチェジュで有名な「三姓穴海鮮鍋」へタクシーを走らせた。生きた海鮮が山盛り。火をかけて徐々に沈み始めたところで、店員さんがちゃんと殻をとって、切り分けてくれる。絶品。

2019年9月3日（火）　晴れ

よく晴れて暑い。でも風は少し秋らしい。チェジュへ行っている間に9月に入った。月をまたいだせいか、ほんの二日いなかっただけなのに、もっと長く行っていたような気がする。チェジュは一足先に秋、夜は寒いほどだった。あっという間の2泊3日だった。

ー夏はノスタルジックー雑感・雑記⑥　個に宿る文化

家系にかかわるさまざまな風習と行事。時代の流れもともに、それらへの考え方や意識も変わってきた。人ごととして聞く分には、「墓じまい」も、それはそうなるだろうなぁと漠然と思う。

親の代がいる時には、まったく無関心だった。ただ言われたことをやるる、それだけだった。でもやりたくないとは思わなかった。やることは自然なことだと感覚的にもっていた。

もってはいたけど自覚はなかった。だから親の代がいなくなって、自分の代に責任がまわってきた時、親の代がやっていたことを自然にやりだしている自分に少し感心した。同時にこうして「文化遺産」は残っていくのかと思った。

今年も旧盆を前にした家系一大行事が一昨日済んだ。親戚総出でみなの先祖のお墓の草取りを手分けしてする。汗まみれで大仕事を終えた後はみなで会食して、親睦を温める。

その様子を天から見守り、よろこんでいるのか、この行事に参加するようになって10年以上、いまだ中止になったことはない。今年も作業のすべてを終えて帰り始めたら、ポツポツ雨が降り出した。

単なる偶然でしかないのかもしれないけど、そこに意味を感じるのが人間。帰り道の足取りは重くても、気持ちは清々しく、万物に見守られた仕合せ感につつまれた。来年もまたちゃんと行けますように。

2019年9月9日（月）　晴れ

台風１５号が関東を通過。そのせいか大阪は異様に暑い。これは堪える。それでなくても夏の疲れが出る頃。用心、用心。

ー[『堀田善衛全集』を見なおす（８）　「鼻にかかる発声」！

２カ月ぶりに全集の見なおしに戻る、第４巻。小説３作品が収録されている。『記念碑』、『奇妙な青春』、『鬼無鬼島』。

作品は読みなおさず、「解説」、「解題」、そして付録の「月報」を読む。ここに作者本人の言葉やエピソード、論評者と通した「堀田善衛」像が載っていて、たのしい。

何がたのしいのか。それらの中に、なぜわたしがこの作者に惹かれるのか、その理由が一つ、二つ、三つ、・・・ちりばめられているからだ。説明しようとすれば難しかったことのあれこれを、順に明らかにしてくれる。

思考の垣根があまりないことや、自問の精神といったことは作品から十分感じとるこことができる。作者の本業の才覚とは別に、作家集団の取りまとめ役などの調整能力に長けていたとは、“へぇ…”。

でも意外な感じはしない。そもそも思考がグローバルで、わたし流の類型からすると、面型の思考の人と想像。ものごとを俯瞰をできる人だったろうから、コーディネーター役はこなせる。

そして「月報」の「田村隆一」が紹介するところによると、「堀田善衛」の『鼻にかかる発声は、きわめて独得のものである』。〈鼻にかかる発声〉！　わたしも少し鼻にかかる発声なのだ。

ますます親近感。見なおして見つける、なぜか惹かれる大小のワケ。

2019年9月20日（金）　今のところ晴

『暑さ寒さも彼岸まで』、一気に秋めいた。今日は彼岸の入り。日の出の時間がずいぶんおそくなり、いよいよ秋本番。

ー　感想・関心　ー　先いく人の後にマスメディア

大新聞は〈今〉を伝える。大きな社会の表舞台に見えるようになってきて初めて報じ、論評をする。

それがよくわかるのは、読者にとって身近な世界のことが取り上げられた時だ。個人的にはコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスがそうだった。いま、そこ？と感じたものだ。

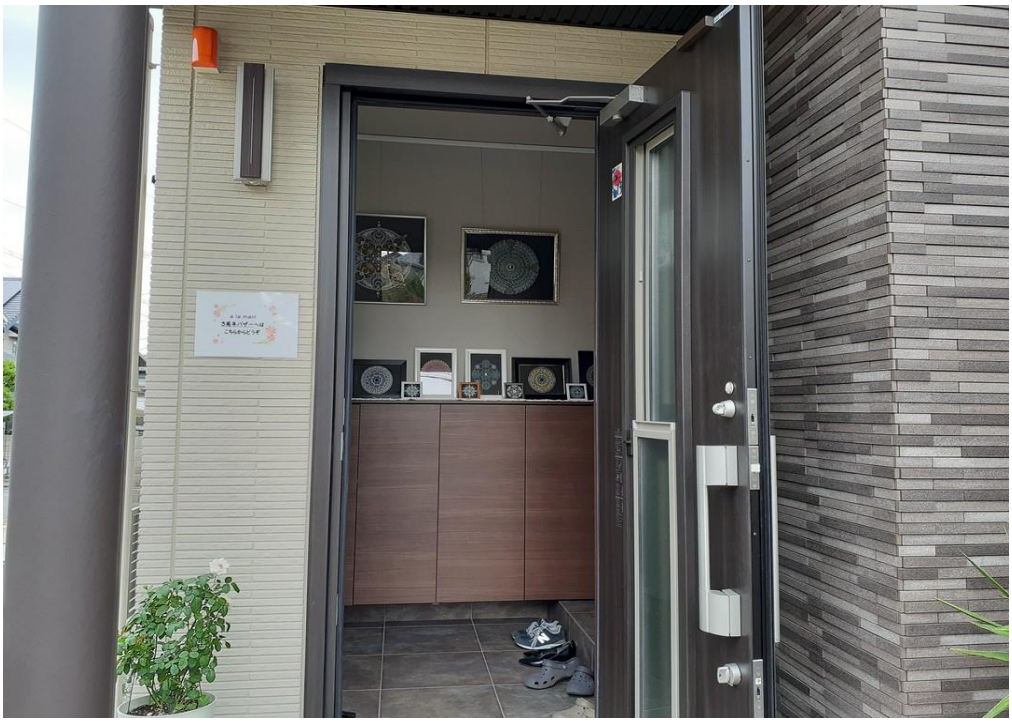
社会の動き、流れを読み、何かしらの問題意識をもった人が、これまでにない新しい試みをする。そういう人たちが、互いの知らないところで、同じようなアプローチを試みる。

そういう人たちが方々でぽうぽつと頭角を現し始めた時に、後追いでそれらの動きを総まとめにして、何らかの概念を当て、世に広まる。研究者やマスメディアの役割はそこだろうと思う。

だから捨てたものじゃない。当世の趨勢はよくもわるくも伝えてているから、視る者、聴く者が、さまざまな情報をとりまとめて、俯瞰すれば、時代の大きな流れはある程度読める。

起業する人にはとりあえず新聞を読むよう勧めるが、あくまでも、時代を読むためのほんの小さな情報源。他の媒体に接し、日常の観察が大きな鍵と唱える。

マスメディアの力はそこそこに、自分というメディアの感度を高めて、時代の先をいく必要はないが、自分ならではの未来をいく必要はある。

2019年9月27日（金）　　a la main 三周年記念バザー

　創業塾のOGの方がアートなレンタルスペースをオープンされて、はや3周年。自分ならではの仕事といき方を実践する女性たちの輪がここにあります。こういう場がそこここにあるでしょうね、女性たちの世界には。